

明治時代、日本の絵画は急激な社会の変化の中で転換期をむかえます。西洋の表現も取り入れられ、新しい「日本画」を求めた模索が始まりました。この時代に活躍した本県出身の日本画家として、伝統的な狩野派の流れを汲む山水画で力を発揮した山内多門がまず挙げられます。また、同時代に秀麗な美人画で認められていたのが益田玉城です。

一方、本県出身の洋画家では、太い輪郭線と鮮やかな色彩で独自の画風を追究した塩月桃甫が、大正5年に文展（文部省美術展覧会）に入選しています。また、力強い筆づかいで生命力あふれる女性像を描いた山田新一などが中央画壇で活躍しました。

ここでは、今回初公開となる山内多門の「十六羅漢之図」など、宮崎県を代表する作家の作品を紹介するとともに、「ある情景」をテーマとしたコーナー展示も行います。

本県出身の作家やゆかりの作家による作品の魅力をお楽しみください。

■展示作品リスト

No.	作家名	生没年	作品名	制作年	大きさ(cm)	技法
1	鳥原 茂之	1916～2013	玉ころがし	1960(昭和35)	112.4×145.0	油彩
2	塩月 桃甫	1886～1954	舞子	1946-54 (昭和21-29)	38.8×27.6	素描
3	塩月 桃甫	1886～1954	舞子	1949(昭和24)	33.3×24.0	油彩
4	塩月 桃甫	1886～1954	いちご	1946-54 (昭和21-29)	30.5×42.9	水彩
5	塩月 桃甫	1886～1954	イチゴ	1946(昭和21)	24.2×33.3	油彩
6	山田 新一	1899～1991	モレ橋畔	1983(昭和58)	38.0×45.5	油彩
7	山田 新一	1899～1991	卓に凭るリューシャ	1927(昭和2)	89.2×90.0	油彩
8	山田 新一	1899～1991	婦人像	1958(昭和33)	65.3×53.2	油彩
9	益田 玉城	1881～1955	錦帯橋	1937(昭和12)頃	右隻172.4×417.8 左隻172.0×418.9	日本画
10	益田 玉城	1881～1955	元禄美人	不明	135.0×49.2	日本画
11	益田 玉城	1881～1955	山宿の春	不明	124.1×41.5	日本画
12	山内 多門	1878～1932	驟雨之図	1907(明治40)	174.6×101.6	水墨
13	山内 多門	1878～1932	十六羅漢之図	1904(明治37)	各127.3×56.3	日本画
14	橋本 雅邦	1835～1908	拾六羅漢図下絵	1895(明治28)	右軸127.4×55.8 左軸127.3×55.9	白描
15	仲矢 勝好	1927～1992	櫻川	1985(昭和60)	130.8×162.4	油彩
16	清水 聖策	1943～	忘れられた人々	1991(平成3)	182.0×227.3	油彩
17	彌勒 祐徳	1919～	再婚	1974(昭和49)	161.4×129.5	油彩
18	坂本 正直	1914～2011	馬たちは…中国に	1985-86 (昭和60-61)	162.0×261.0	油彩
19	川越 彌録	1917～2008	水と人間	1988(昭和63)	145.5×145.5	油彩
20	塩水流 功	1924～1996	「あがった、あがった！」	1984(昭和59)	162.0×227.5	油彩